虎岩散策ワークシート

名前

自然の博物館周辺の岩石と地形

実物を観察してみよう

**１****長瀞の岩石と地形に関するもの**

　①結晶片岩・・・地下20～30kmの深さで作られた岩石で、その後地表近くまで上昇してきた。

特定の鉱物が平面上に並び、パイの皮のように何層も重なった構造をしている。

　②片理・・・結晶片岩の縞模様の中のうすい層のこと。

　③節理・・・岩石に規則正しく入る割れ目のこと。

　　　　　　　地殻変動で地表近くに上昇した際に、圧力が解放されてできたと考えられている。

　④紅簾石片岩・・・紅簾石というマンガンを含む珪酸塩鉱物を含むため、ピンク色を含む。

　　　　　　　　　　この岩体は、親鼻橋のすぐ上流にある。

　⑤ポットホール（）・・・流水と玉石による浸食作用によって、川底の岩盤に開いた穴。

　　　　　　　　　　　　　　 岩畳上にも大小さまざまなものが見られ、最大のものは直径２ｍ　　　にもなる。

**２　埼玉県立自然の博物館周辺の石碑**

①「日本地質学発祥の地」の石碑・・・長瀞は日本の地質学の発祥の地と呼ばれ、明治時代から多くの地質学者や学生が地質を学ぶために訪れている。この石碑にも巨大な赤鉄鉱片岩の一枚岩が用いられている。

②宮沢賢治の詩の歌碑・・・博物館から虎岩のある河原への降り口にある。

　　　　　　　　　 賢治が盛岡高等農林学校２年生の時に、地質学を学びに長瀞・秩父に来た時に読んだ歌が刻まれている。

＜歌を書いてみよう＞

　　※荒川沿いに顔を出している結晶片岩の構造を粋な模様の博多帯に例えている。

　　　（横糸が「片理」、経糸が「節理」）

**３　虎岩**

　＜解説＞　岩肌が虎の毛皮模様に見えることが名前の由来。スティルプノメレン片岩という産出の少ない結晶片岩からなる。

鉄やアルミニウムに富む珪酸塩鉱物

　＜スケッチ＞　虎岩を「片理」と「節理」がわかるように、スケッチしてみよう。

